

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



静岡県静岡市
が応援するふるさと名物

伝統の継承と進化
しずおか地場産業応援宣言



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

静岡県静岡市

地域の
プロフィール

静岡市のあらまし

静岡市は温暖な気候に恵まれ、北は南アルプスから南は駿河湾に至るまで、豊かな自然環境を有しながら、古くから今川氏や大御所時代の徳川家康公の城下町として、独自の文化や産業を育み、日本の中枢都市として発展を続けてきました。

特に「お茶」や「桜えび」、「プラスチックモデル」などの多様な産業や、国際貿易の拠点である清水港での交易は、本市の経済において重要な役割を担っています。

また、登呂遺跡、久能山東照宮などの歴史的遺産・建造物は本市のみならず日本の大切な財産です。



世界文化遺産 三保松原



国宝 久能山東照宮

主な地域資源

静岡市の伝統工芸品・地場産品

静岡市の伝統工芸品は、徳川三代将軍家光が浅間神社の造営に際し、秀でた名工たちを集めたことに始まります。駿府に永住した名工たちの技術と伝統が長い年月を経て受け継がれ、今日では静岡市の工芸品が国の伝統的工芸品、静岡県内の郷土工芸品として指定されています。

これらの静岡市の伝統工芸産業は、時代の変化に伴い家具、仏壇、サンダル、プラスチックモデルなど、新たな産業をも生み出し、現在では他に例を見ないほど多業種による地場産業都市を形成しています。

主な地域資源



木製家具



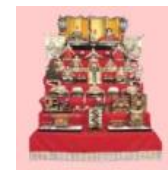
仏壇



プラモデル



靴・サンダル



駿河雛具・雛人形



駿河指物



駿河塗下駄・張下駄



静岡挽物



駿河漆器



駿河蒔絵



駿河和染



井川メンパ



賤機焼



木製雑貨



駿河竹千筋細工

主な地域資源

◆駿河漆器

駿河漆器は、江戸時代に浅間神社造営のため、江戸をはじめ全国各地から集められた漆工たちが静岡に残り漆芸技術を広めたことが始まりです。

駿河漆器は、金剛石目塗・蜻蛉塗・珊瑚塗など多彩な塗りに特徴があり、主な製品としては、重箱・椀・花器・菓子器・アクセサリーなどがあります。



◆賤機焼

江戸時代初期が創始といわれ、徳川家康公から賤機焼の称号をもらって御用窯として栄えました。一度廃絶しましたが明治中期に再興されました。以後改良を重ねながら受け継がれ市民に愛されています。鉄分を含んだ陶土による素朴な味わいの暖かみのある花器・酒器・茶器などが作られています。



◆駿河指物

駿河指物は徳川時代の久能山東照宮、浅間神社の造営などにより、それに携わった優秀な職人が静岡に移り住んだことが興隆の大きな契機とされています。

指物家具は、無垢材を多彩な組み手、継ぎ手技法を用いて製品を作るため、一つの部材に多くの工程を費やすことで大量生産には向かず、高級品となっています。



◆静岡挽物

挽物はろくろを使って木を丸く加工して作る製品をいいます。江戸時代末期に静岡の銘木商が箱根の挽物師から教わり、下石町で開業したのが始まりと言われています。

主な製品は、コショウ挽きなどの食卓台所用品・文具・玩具などや雛道具部品・家具部品・建築用部品などで、さまざまな産業に関りを持っています。



主な地域資源

◆井川メンパ

江戸時代末期になるとそれまでの山村農民の生活用具に漆塗りの技術が加わり、現在の井川メンパが誕生しました。井川メンパは桧のうす板を丸型や小判型に曲げて継ぎ目に桜の皮を使い、生漆を塗って仕上げたもので、素朴さと丈夫さが特徴です。



◆駿河竹千筋細工

静岡は、昔から周辺に良質の竹を産出し、「駿河細工」と称され、竹製品が親しまれてきました。駿河竹千筋細工は、一般的な平ヒゴを編む技術と異なり、丸ヒゴを組んで作る技法が特徴で、繊細優美な製品に仕上げます。花器・菓子器・盆・行灯などがつくられています。

駿河竹千筋細工は昭和51年に静岡県で初めて国の伝統的工芸品に指定されています。



◆駿河和染

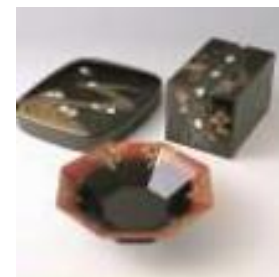
静岡市には、紺屋町など染色に由来する地名が残っているように、古くから染め物が盛んに行われていました。静岡の染色は、多くの先人達の伝統技術によって育てられ、藍と白の素朴なコントラストの中にも力強さと単純化された美が生かされています。主な製品には着尺・のれん・テーブルセンター・風呂敷・テーブルマットなどがあります。



◆駿河蒔絵

蒔絵は、漆面に金・銀・錫粉をまきつけたり、卵殻や貝を貼って加飾します。静岡の蒔絵は、絢爛な消粉蒔絵を得意とし、デザインの斬新さと変り塗の多様さが相まって、特色ある漆器産地として静岡の名を高める源となっています。

この蒔絵技術を用いた製品には、硯箱・盆・文庫・宝石箱・かんざしなどがあります。



主な地域資源

◆駿河塗下駄・張下駄

塗下駄は、明治時代に本間久次郎氏により漆塗りの下駄が考案され、また大正時代に輸出漆器より転換した職人たちにより創意工夫がなされ発展を遂げました。

張下駄は、明治時代に下駄の表面に桐の柁経木を張ったものが作られたのが始まりと言われています。共に伝統を受け継ぎながら品質の向上に努力しています。



◆木製雑貨

木製雑貨は、江戸時代の漆器から派生したもので、明治時代末から大正時代にかけて、静岡が輸出漆器の有数の産地になるにつれて、木製品の製造の技術・ノウハウが蓄積され発展。ソーイングボックス・小引出し・ミニ家具類等のインテリア用品開発を行い、高度成長の波に乗って更に発展しました。



◆木製家具

静岡の家具で最も古い歴史を持つのは鏡台です。その源は漆器で、漆器作りで培われた伝統的技術、技法が鏡台作りに活用されました。

昭和30年代以降は、サイドボードという新商品が開発され、「鏡台」と「サイドボード」が静岡の家具の代表となりました。



◆仏壇

静岡の仏壇産業は戦後に発展した産業で、昭和27年頃から東京仏壇の製作を静岡の木工業者が依頼されたことを契機に、従来の手作りの方法から木工機械、塗装機械を駆使するようになり、その後、他の木工業界からの転入者が続々と参入してきました。現代の住宅事情や生活様式にあった新製品の開発にも積極的に取り組んでいます。

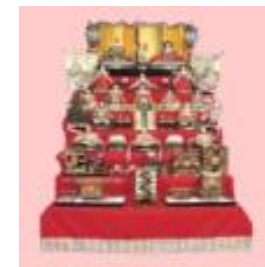


主な地域資源

◆駿河雛具・雛人形

関東大震災により東京の職人が静岡に移り住んだことで静岡市の雛具業界は全国的な産地となりました。一方、雛人形は昭和初期に人形師を招き技術を導入、本格的な製造が始まりました。

駿河雛具・雛人形は平成6年に伝統的工芸品の指定を受けています。



◆靴・サンダル

戦前は高級塗下駄の産地として全国に不動の地位を占めていた静岡市ですが、時代の流れとともに業界は靴・サンダルの製造に転換していきました。現在でもデザイン、履きやすさへの研究が盛んに行われ、新しい商品が生まれています。



◆プラモデル

静岡市は現在、日本一のプラモデル産地となっています。木製模型産業から始まり、多くのメーカーがプラモデルへと転換していきました。現在では国内最大規模の模型見本市が静岡市で開催されるほどとなり、「模型の世界首都 静岡」として国内外へ魅力を発信しています。



静岡市の取り組み

情報発信・PR

★「駿府匠宿・駿府楽市」

伝統工芸を実際に体験できる施設「駿府匠宿」、伝統工芸・民芸・特産品を数多く揃えるJR静岡駅内の販売施設「駿府楽市」を通じて、静岡市の伝統工芸品・地場産品のPR活動を行っています。



★「ホビーのまち静岡」推進事業

プラスチックモデルの聖地として模型ファンに愛される静岡市をPRすることを目的とし、「ホビーのまち静岡」推進事業に取り組んでいます。JR静岡駅南口すぐ近くにあるホビーの情報発信基地「静岡ホビースクエア」では無料の常設展で静岡の模型メーカー6社の製品を見ることが出来ます。



静岡市の取り組み

新商品開発

★ニューウェーブ「しずおか」創造事業

「つなぐデザイン」をテーマに、静岡市内の事業者と全国のデザイナーがコラボレーションすることで静岡ならではの自社ブランド商品を創造し、発信しています。



人材育成

★後継者育成事業（クラフトマンサポート事業）

伝統工芸を中心とした地場産業に関わる技術を持った次世代を担う人材の育成を図ることにより、地場産業の活性化と後継者育成に結びつけるための事業を実施しています。

